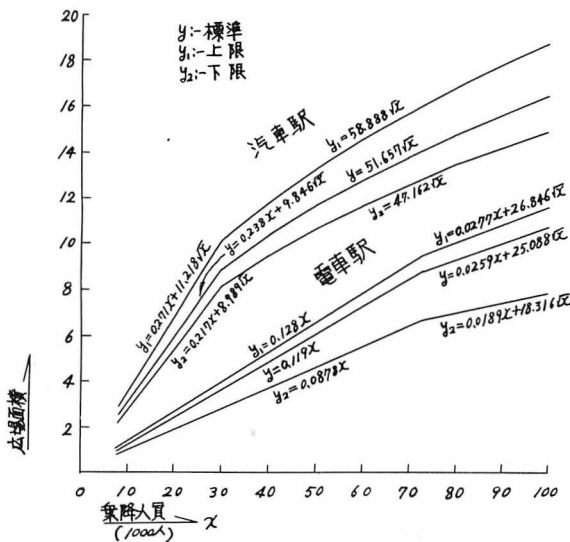


2. 駅前広場面積査定



とが多く、その費用はわが国では鉄道と道路管理者側とが折半負担する場合が多い。

駅前広場は都市交通の要素として多くの人や車が集まるところであるから、適当な施設によってこれが混雑の整理を計るべきであるが、一方自動車やバスの乗入れについても適宜これが監督指導の必要がある。とくに近來自動車・バスの発達がいちじるしいので、これを無制限に放置しておけば駅前の混雑を助長するので、実情に応じその乗入れ・駐車に制限を加える必要がある。(安河内麻雄)

えきむがかり 駅務掛 駅におかれる職で駅長の指揮をうけて出札掛・改札掛・小荷物掛・貨物掛および電信掛の職務に従事するものである。

この職は前記の職がそれぞれ1人量に達しない場合等に配置する総合職名であって、駅長の勤務指定によって、具体的に従事する職務内容が指定される。特殊日勤駅においてとくに命ぜられた場合は駅長の代理を行う。この特命の駅務掛は1箇月間に8日以上駅長の非番日および公休日の代務に従事する者に指定する。(加藤誠次郎)

えきめいこいん 駅名小印 乗車券類面の記載事項を訂正した場合またはその他の証明をした場合に、その証印として押なつする駅名・船名または案内所名を表示したつぎの印影のゴム印をいう。

駅または汽船用	東京駅	横 0.5cm 縦 1.0cm	案内所用	神田	横 0.6cm 縦 1.5cm
---------	-----	--------------------	------	----	--------------------

駅名小印は駅・汽船内または案内所において使用し、列車内または自動車内においては一般に乗務員が「何レチ」または「何レカレチ」と記入してその箇所に認印を押してこれにかえる。

駅名小印を制定する理由は、元來乗車券類等のように運送契約の証票の訂正または証明には当然駅長公印の押なつすべきであるが、乗車券類の大きさからこれを押なつすることは適当でなく、また駅長公印を出札・改札等の数箇所に設備することはできないので、小型でありかつ個数に制限なく各所に設備できる印を設けて公印の押なつにかえるのである。(平林喜三造)

えきめいふだ 駅名札 手荷物切符または小荷物切符(代金引換小荷物切符を含む)の補助用として、発駅において作成のう

え荷物にくくり付け、運送および取扱の便に供するものでつぎの4種類に分れている。

1 第1種駅名札
図-1の様式の手荷物用駅名札で、1口2個以上の手荷物の場合に、手荷物切符のくくり付けのない方の手荷物にくくり

付けるものである(第3種駅名札をくくり付ける場合は、第1種駅名札のくくり付けを省略する)。

2 第2種駅名札 第1種と同様式白色の一般小荷物用駅名札で、1口2個以上の小荷物で小荷物切符のくくり付けのないものおよび無賃小荷物で小荷物切符を発行しないもの(特別扱新聞紙の荷造用包装布・紙または板および返送空犬箱)にくくり付ける(第3種駅名札をくくり付ける場合は、第2種駅名札のくくり付けを省略する)。

3 第3種駅名札 図-2の様式の特別荷物用駅名札で文字および模様を緑色とし証券付小荷物・代金引換小荷物・貴重品および運賃・料金を着払とする荷物に対し、手

小荷物切符のくくり付けがあるを問はずすべてにくくり付ける。

4 第4種駅名札 列車

指定小荷物用の駅名札であるが、列車指定小荷物制度が活用されていないので実際には使用されていない。(金田政吉)

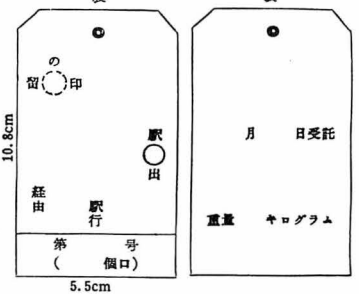
えきわたし 駅渡 配達貨物を配達に着手前あるいは配達に着手するも荷受人の責にならない事由で持ちもどった貨物を、着駅において引渡すことをいう。

なおこの語はしばしば商取引において商品の引渡し箇所を示す語として使用されるが、この場合の意は発駅渡しまたは着駅渡しとして売主の負担が発駅までまたは着駅までとし、以後買主の負担において商品が引き取られることを意味する。(重森直樹)

えさしせん 江差線 函館本線五稜郭駅から分岐して西へ進み、木古内を経て日本海に面する江差に至る79.9kmの線。函館線に属し線路等級は丙線(木古内・江差間簡易線)となっている。

五稜郭・上磯間を上磯線として大正2・9開通、上磯・江差間は大正11年鉄道予定線に編入され、木古内まで昭和5・10開通、木古内・江差間は昭和11・11開通し、全通と同時に線名も江差線と改められた。終端江差は北海道西海岸における要港として古くから知られている。(森 徳寿)

1. 第1種駅名札(淡緑色)



2. 第3種駅名札

